

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

【 北九州市 】

1 実践テーマ	【Ⅲ, V】
2 実施対象者	北九州市立足立中学校 全校生徒 304名 保護者 地域の方 50名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合, 道徳) ② その他 (土曜日授業 西山将士氏による講演会・柔道体験 土曜日 部活動生によるフラッグツアー)
4 目標 (ねらい)	①「国際車いすバスケットボール大会観戦」のねらい ・ 車椅子を使って生活する苦勞や工夫を知り、体験を通して考え、障害をもった方たちと共生する社会について考える。 ・ 車椅子バスケットの選手の方の話を聞いたり、競技用車椅子の使用体験をしたりして、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養う。 ②「土曜授業スポーツ講演会」のねらい ・ オリンピック選手との交流を通してスポーツへの理解を図り、目標を立てて努力することの尊さを学ぶ機会とする。 ・ オリンピックでメダルをとった選手の成功や苦勞の話を通して、運動・スポーツへの関心や親しみを深め、将来に夢をもって取り組んでいくことの大切さや、あきらめないで努力する気持ちを育む。 ③「オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」のねらい ・ オリンピック・パラリンピック推進校として、東京2020大会を盛り上げる気持ちを高める。 ・ 多くの生徒がフラッグにふれ、オリンピック・パラリンピックの開催を身近に感じる。
5 取組内容	①「国際車いすバスケットボール大会観戦」の取組 ・ 11月10日(金)に1, 2年生全クラスで、「第14回北九州チャンピオンズカップ 国際車いすバスケットボール大会」の観戦を行った。 ・ 事前学習として北九州市を舞台に、車いすバスケットに挑戦する少年の成長を描いた映画「ウイニングパス」を2時間視聴した。 ・ 事前学習として道徳の時間に「『ガイジ』と知っているあなたへ」というテーマで身体障害者への理解を深める授業を行った。 ・ 事後指導として、国際車いすバスケットボール大会を観戦しての感想文を書いた。



②「土曜授業スポーツ講演会」の取組

- ・12月9日（土）に土曜授業としてロンドンオリンピック柔道90kg級銅メダリストの西山将士選手にお越しいただき、講演会と実技披露・柔道体験を行った。
- ・事前学習として、クラス代表で柔道体験に参加する生徒を決め、オリンピックに関する質問を各クラスで考えることによって、オリンピック・パラリンピックへの理解を深めた。
- ・土曜授業当日は、第1部として「スポーツ講演会『2020東京五輪に向けて』と題して講演会を行い、第2部に柔道の「実演披露・実技体験」を行った。
- ・講演会の中で西山選手に持ってきていただいたオリンピックのメダルを生徒全員が触らせていただいた。
- ・第1部の最後に、西山選手にオリンピックについての質問、世界のトップで戦うために必要なこと、中学生の時ほどのようなトレーニングを行っていたか等について、各クラスの代表生徒が直接質問を行った。
- ・第2部は、各クラスの代表生徒により柔道体験を行った。体験生徒は実際にロンドンオリンピックメダリストである西山選手による柔道体験をさせていただいた。
- ・事後学習として、西山選手に感謝の手紙を書き、西山選手に送った。
- ・事後の取組として、当日取材にしていた西日本新聞社、読売新聞社の掲載記事を校舎入り口や各教室に掲示することにより、取組の振り返りを行った。





③「オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の取組

- ・1月21日（日）に部活動生徒，生徒会役員生徒により，「東京2020オリンピック・パラリンピック フラッグツアー」に参加した。
- ・代表生徒2名によるオリンピック・パラリンピックフラッグの入場及び吹奏楽部生徒による演奏を行い，代表生徒から学校長へフラッグの引継ぎを行った。
- ・参加者全員による記念撮影と部活動ごとの写真撮影を行った。
- ・事後の取組として，当日取材にしていた読売新聞社の掲載記事を校舎入り口や各教室に掲示することにより，取組の振り返りを行った。



6 主な成果

①「国際車いすバスケットボール大会観戦」の成果

- ・障害者スポーツの観戦を通して，障害を持っている人も健常者と変わらずにスポーツに取り組んでいる姿を見ることにより，心のバリアフリーの意識を高めることができた。
- ・車いすバスケットを観戦することによって，様々な障害を持つ人への理解，色々な人たちと共生しているということ，またスポーツを通しての国際交流について学ぶことができた。

②「土曜授業スポーツ講演会」の成果

- ・ロンドンオリンピック柔道銅メダリストである西山選手をお招きして，スポーツ講演会を行うことで東京オリンピック・パラリンピックに向けて，生徒の興味・関心を高めることができた。
- ・実際に西山選手に質問をしたり，柔道体験をさせていただくことで，オリンピック競技や選手を身近に感じる事ができた。
- ・講演会の最後に西山選手が「うまくいくときも，いかないときも続けるしかない。」と話をしていただき，最後まであきらめずに続ければ，夢は叶うということを知ることができた。
- ・生徒の感想には「継続することの大切さを教えてもらった。部活で実践したい。」といった文章が書かれるなど，スポーツを通して，あきらめないことの大切さや，それを実践していこうとする心を育むことができた。

	<p>③「オリンピック・パラリンピックフラッグツアー」の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックフラッグツアーの参加を通して、自分たちも誰かとつながっている、また2020東京オリンピック・パラリンピックに向けて自分たちもフラッグや思いを繋げているという思いを実感することができた。 ・新聞社の取材に「五輪旗からはアスリートたちの『勝ちたい』という思いが伝わってくるようだった。自分も目標に少しでも近づけるように頑張りたい。」と話した生徒もいたように、この取組を通して高い目標を持ち、その実現のために努力する生徒を育てることができた。
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜授業の講演会の前後に車いすバスケットボールの観戦や、オリンピック・パラリンピックフラッグツアーに参加することにより、繰り返しオリンピック・パラリンピックへの理解を深めることができた。 ・オリンピックのメダリストを招致することで、生徒のオリンピック・パラリンピックへの興味・関心を非常に高めることができた。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も継続して取組みを続けていくためには、年間当初より年間指導計画の中に組み込み、計画的に取組みをしていくことが必要である。 ・本年度、本校は学校長の教え子ということで西山選手をお招きしたが、どの学校でもこれと同じことをするのは難しいと思う。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>土曜授業や、総合の時間を活用して、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、来年度以降も継続して、取組を続けていきたい。</p>